

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

愛媛県		
学校名	管理機関名	設置者の別
愛媛県立松山東高等学校	愛媛県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
愛媛県立松山東高等学校	https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/page_20220427101556

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
愛媛県立松山東高等学校	https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/page_20220427101556	https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/page_20220427101556

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

多様な地域人材を活用した講演や企業フィールドワークなどを通して、地域を理解するとともに、問題発見の視点を養うことができている。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

新入生オリエンテーションや、類型、科目選択説明会（新2年生対象）において、特別の教育課程による学校設定科目を活用した課題研究への取組について説明している。また、中間発表会や研究成果発表会を実施し、生徒の取組状況についての情報発信を行っている。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、平成26年度から平成30年度までの「スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）事業」及び、令和元年度から令和3年度までの「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の二つの文部科学省研究指定事業で蓄積した学びのスキルや地域との連携を生かして、グローバルな視点を持って地域課題の解決に貢献できるグローバル人材の育成を目指すものである。実際、防災を多文化共生の視点から捉え直すなど、多角的な視点で様々な事象を考察する姿勢が身に付いており、効果が上がっている。

一方で、将来、地域に戻り、地元のために貢献できるグローバルリーダーを育成する上で、地元企業や、地元企業の地域課題との関わり方について理解を深める工夫が必要ではないかといった課題が指摘されている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本県屈指の伝統校かつ公立進学校として、高い進路目標を抱いた生徒が数多く入学してくる。難関大学や医学部医学科を中心に多数の合格者を輩出するなど、本特例の実施により生徒一人一人の高い進路目標につなげていることがうかがえる。また、探究活動を通して、主体的に考え、自らの考えを発信したり、積極的に行動したりする力を身に付けるなどの成果が上がっている。

一方で、県外の大学に進学した生徒が、将来、地域に戻り、地元のために貢献したいと考えるグローバルリーダーを育成する上で、地元企業の取組に一層目を向けるための工夫が必要ではないかといった課題が指摘されている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題を踏まえ、地元企業の地域課題との関わり方を具体的に知ることを通して、地域課題に対する自分たちの関わり方をより具体的に考えるヒントを得るとともに、将来、地元に戻るきっかけとなる活動を取り入れるといった方向で本特例の改善を図ることが必要であると考え。そのために、企業フィールドワークを、従来の、地元企業の見学を中心としたものから、地元企業が地域課題にどのように関わっているかを知ることが主体としたものに変更している。